

「信州学び円卓会議」の概要

及び

県民に向けたメッセージ

2024年9月2日、3日

第2回地域版信州学び円卓会議

目的

変化が激しく先行き不透明な時代にあって、これからの子どもたちにとっての学びの選択肢の充実や個別最適な学びを実現するために何が必要かを幅広く検討し、関係する様々な主体における取組や県民全体の機運醸成につなげることを目的とする。

開催実績

回	月日	議論のまとめ
第1回	R5.9.1	教育に関するこれまでの当たり前を変えていく、教育システムのあり方を問い直していく
第2回	R6.2.1	教育に関する制度や現在の取組を共に学びながら方策の検討を進める、地域の抱える課題に取り組む
第3回	R6.5.20	これまでの意見を円卓会議の案として示し、県民の皆様の理解を得ていくプロセスに移行していく
第4回	R6.7.4	メッセージ発信や関係団体との意見交換を通じて、関係する様々な主体における取組につなげていく

これまでの議論を踏まえたありたい姿

ありたい姿	主な現状と課題	ありたい姿	主な現状と課題
子どもたちが学校等でやりたいことを実現できている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが主体的・対話的に学ぶことができる環境が整備されていない 子どもたちが先生と向き合う時間が不足している 	小規模校ならではの特色ある学びが実現できている	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会における学びの場の確保や質の維持・向上のあり方の検討が急務となっている
教員が学校等でチャレンジしたいことを実現できている	<ul style="list-style-type: none"> 事務量の多さと多忙感により時間的・精神的な余裕がなく、余白がない 外部人材の活用が進んでいない 	「こどもまんなか社会」の実現に向けて様々な機関が連携・協働している	<ul style="list-style-type: none"> 学校と学校外の関係者の対話の場・機会が不足している 多様な学びに関する情報にアクセスできる環境が整備されていない
多様性の時代に即した入試制度になっている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心を深める学びや自分の強みを伸ばしていく学びと、入試制度の整合性がとれていない 	多様な学びの場を信州全体で支えている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが抱える困難の多様化・複雑化に対する理解が進んでいない 学校だけに責任を追及しない社会の寛容さが醸成されていない

※信州学び円卓会議の詳細は、下記URLまたは右記二次元バーコードからご覧いただけます。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/ken-manabi/manabi/entaku.html>



目的

県民一人ひとりが子どもたちにとって最適な学びのあり方について自分事として考える機運の醸成を図るため、また、円卓会議での議論に資するため、県内各地の多様なフィールドにおける学びの当事者との意見交換を実施。

開催実績

回	日時・フィールド	テーマ	対象	意見概要
1	R5.9.23 (根羽村)	次世代に続く 中山間地域での 学びづくりとは	根羽村、その他 中山間地域での 学びに関心・関わり のある方	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学校を地域に開き</u>、大人も学校で児童生徒と共に学ぶ環境が作れないか ・ 根羽村では小規模校の特性を活かして<u>学年を超えた、自由度の高い学び</u>を行うことができるのではないか ・ 中山間地域において、先生たちがやりたいことをできるようになるためには、<u>適正な教員配置</u>などの課題がある
2	R5.10.18 (フリースクール)	子どもの居場所 と学びの継続について	居場所・フリースクール 関係者、児童・生徒、 保護者、教員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、フリースクール関係者、保護者、行政がもう一步踏みこんで話せる場があるとよい ・ より多くの保護者や生徒に対して、「<u>学校に行けなくても大丈夫</u>」という<u>価値観を広げ、色々な選択肢があることを知ってもらう</u>ことが必要 ・ <u>学校以外の学びの場、支援機関の認知度が低く、情報発信が必要</u>
3	R5.10.25 (松本県ヶ丘高校)	中学生・高校生・ 保護者が望むこれからの 高校での学びのあり方	中学生、高校生、 保護者、教員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員も生徒も自由度が少なく、主体的に取り組めることが限られている ・ <u>学校は自分の「好き」を突き詰められる場所</u>であり、それぞれの夢や将来に合った授業を取り入れてほしい ・ 生徒と教員がじっくり話せる環境が重要
4	R5.11.14 (信濃教育会館)	教員の理想とする、 これからの長野県での 学びとは	教員、その他の 教育関係者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達が興味関心を持ち自発的に学ぶことを実現するには、<u>教材研究をする時間の不足、保護者への対応に追われる、教員の人数不足、へき地の学校への教員配置等の課題</u>がある ・ 子ども達が学びたいことに対して教師が伴走して支えることが理想ではあるが、<u>受験等保護者の関心と両立できるか疑問</u> ・ 教師や子どもたちが失敗を恐れずに様々なことに<u>チャレンジできる機運の醸成</u>が必要

回	日時・フィールド	テーマ	対象	意見概要
5	R5.12.6 (軽井沢風越学園)	私たちが考える理想の「学びの環境」とは	軽井沢風越学園の生徒、教員、保護者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生徒が自分で学びたいことを見つけ、異学年で共に学びながら思ったことを発言し、互いに肯定し合う環境が重要</u> ・ <u>地域の大人と関わり、大人と子どもという枠に縛られずに互いに学ぶことができる</u>とよい ・ <u>学びの場を学校に限定する必要はなく、一人ひとりの得意分野が評価される仕組み</u>があるとよい
6	R6.1.17 (信州大学教育学部)	教員の魅力と私たちが考える教育の未来	大学生、大学院生、教員、その他の教育関係者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教員になりたい」と言うと色々な人に大変だよと止められる。<u>学校現場の大変さを伝えすぎると教職離れがすすむのでは</u> ・ 初任者であることの不安。やりたいことはあるがどうしたら初任者の壁を越えられるか ・ 時間割のシステムが当たり前になっているが、<u>子どもたちが授業を選んで学べるとよい</u>
7	R6.3.7 (特別支援学校)	すべての子どもを包み込む学びの環境とは	特別支援学校生徒、保護者、教員その他の教育関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大人の視点だけで子どもの学びの環境を決めるのではなく、子どもの視点も取り入れて一緒に考えることが重要</u> ・ <u>子ども自身が学びの環境や自分の居場所を「選択できる」こと</u>、そのために地域や社会が受け入れる体制を整え、選択肢を増やすことが重要 ・ 選択肢を増やすためには、情報提供体制や学校の人的・設備的サポートの充実が必要
8	R6.5.13 (インターナショナルスクール)	「私の学び」を実現するためにできること	高校生、保護者、教員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の中だけで学びを完結させず、<u>地域や異年齢、異文化の人とのコミュニケーションが「広がり」や「深み」のある学びに繋がる</u> ・ 私立学校と公立学校がお互いの長所を伸ばしあい、短所を補完していくことで、<u>地域全体として子どもの学びを高めていける</u> ・ <u>子どもが興味を持って学んだことを、どう学習指導要領の内容に繋がれるのかを教員が考えること、それを教員が心にゆとりをもって考えられる環境が重要</u>

(R6.4.1現在)

職名	氏名
信州大学教職支援センター准教授 (信州学び円卓会議座長)	荒井 英治郎
軽井沢風越学園校長	岩瀬 直樹
松本大学教育学部教職支援室専門員 (前長野県飯田養護学校校長)	浦野 憲一郎
根羽村長	大久保 憲一
(公社) 信濃教育会会長	大日方 貞一
(学) 白馬インターナショナルスクール 理事長	草本 朋子
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤 守
NPO法人Hug代表	篠田 阿依

職名	氏名
山ノ内町教育長	竹内 延彦
上田市立第五中学校校長	畠山 正幸
須坂市長	三木 正夫
松本市立波田小学校校長	三輪 千子
信州大学教育学部学部長	村松 浩幸
長野県野沢北高等学校校長	柳沢 敬
長野県知事 (オブザーバー)	阿部 守一
長野県教育長 (オブザーバー)	武田 育夫

2024年7月30日（火）

信州学び円卓会議からのメッセージ

他者と協働しながら社会の課題と向き合う

新しい社会の創り手を育むために

学びの
「新しい当たり前」
を共に創る

- 本日のメッセージは、
信州学び円卓会議のこれまでの議論を取りまとめたものです
- 県民の皆様、また取組主体となる関係団体の皆様におかれては、
学びの「新しい当たり前」を共に創るために、
また、「こどもまんなか社会」の実現のために、
それぞれの立場で考え、様々な主体と協働し、
皆で実現に向けた取組を進めていきませんか。
- 知事と教育長におかれては、先頭に立って取り組んでいただく
ことを期待いたします。

これまでの「当たり前」

学校において、同じ教室で、同じ年齢の子と、同じ内容を、同じペースで学んでいる。

多くの子どもたち、そして、私たち大人がイメージする学びの風景の「当たり前」ではないでしょうか？

私たち「信州学び円卓会議」では、

「長野県の子どもたちにとって最適な学びのあり方」について議論を重ねるとともに、
児童・生徒、学生、先生、保護者、地域の皆さんなど、様々な学びの関係者と意見交換を行ってきました。

「学校は、自分の好きをとことん突き詰める場所であってほしい」

「学校は、安心・安全で自分を受けとめてもらえる場所であってほしい」という子どもたちの声。

「子どもたちといっしょに、遊ぶように、楽しく学び合いたい」

「一人ひとりの子どもを起点とした学びの支援者でありたい」という先生たちの声。

これまでの「当たり前」をもっと良くしていくための様々な声が聞かれました。

先人たちが築いてきた信州教育

明治以降、「長野県は教育県」と全国から高い名声を受けてきました。

その背景には、全国に先駆けて、学校の施設整備に取り組んだことや就学率の向上を推進したことのほか、教育界に人材を求め教員を厚遇するという決断と、その実現を支えた多くの県民の熱意と努力がありました。

子どもの問いや発見を、学びの中心に据える。

子どもの姿から、教師が学ぶ。

子どもと共に、教師も成長する。

信州教育は、「子どもの事実」に心を寄せて、学びに真摯に向き合い、子どもと教師が、共に学び、共に育つ場を丁寧に紡いできたのです。

このような先人たちの取組は、

教育に対する教師の使命感と熱誠、そして、県民の熱意によって支えられてきました。

学びに誠実に向き合うこと。

この伝統は、今も長野県に息づいていると私たちは信じています。

今こそ、教育や学びのあり方を転換させる時

地球規模の気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化と激変する国際情勢。

少子高齢化やデジタル技術の急速な進展。

社会の複雑化と子どもが抱える困難の多様化。

今こそ、子どもを主語にして、一人ひとりが自分の個性や可能性を認識でき、
多様な他者を尊重し、共に協働しながら、持続可能な社会を創っていくことが求められています。

学びの「新しい当たり前」を共に創る

2023年4月、「こども基本法」が制定されました。この法律は、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組を日本社会の真ん中に据えて、強力に進めていくために定められたものです。

すべての子どもは、かけがえのない存在です。

しかし、私たち大人は、「子どものため」と言いながら、

大人の都合を子どもに押し付けてきたことはなかったでしょうか？

子どもたちが考えていること、やりたいこと、悩んでいることに、真摯に耳を傾けてきたでしょうか？

先人たちが築いてきた「信州教育」は、「子ども」を主人公にしたものであり、一人ひとりの教師が、教育という営みに主体的に関わってきたものでした。

学びの中心に、子どもがいる。

一人ひとりの違いを、互いに尊重する。一人ひとりの個性が輝いていく。

「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求していく。

子どもが子どもらしく、幸せな子ども時代を謳歌していく。

そして、他者と協働しながら、社会の課題と向き合っていく。

新しい社会の創り手を、共に育み、支えていく。

このような「新しい当たり前」を共に創っていきませんか？

信州学び円卓会議は、次の「取り組むべき方向性」と「重点取組項目」を提案します。

ま

学びの主人公を「子ども」に

な

長野県の学校・先生の
チャレンジを支える

び

ビジョンをもとに
つながり、広げる

- 1 子どもたちが学校等でやりたいことを支える
- 2 教員が学校等でチャレンジしたいことを支える
- 3 一人ひとりの学びや得意を共に認め合う仕組みを検討する
- 4 長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる
- 5 「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める
- 6 多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する

1

子どもたちが学校等でやりたいことを支える

一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求する学びを後押しをしていきましょう！

他の学校や地域で取り組んでいるモデルとなる学びを
広く共有していきましょう！

子どもたちの思いを受け止め、自分らしく学べる環境を育てていきましょう！

2

教員が学校等でチャレンジしたいことを支える

社会の変化とともに、学校・先生に求める役割が拡大しています。

学びの伴走者として、教育活動に十分に力を発揮できる環境を整えていきましょう！

持続可能な学びを実現していくために、働き方改革を進めていきましょう！

学校の先生・支援人材の採用・配置・異動のあり方を検討していきましょう！

先生・支援人材の学びを支えていきましょう！

「次世代の先生」を共に支えていきましょう！

3

一人ひとりの学びや得意を共に認め合う

仕組みを検討する

長野県環境は、もっと豊かな学びを構想・実現していける可能性を秘めているのではないのでしょうか。

子どもをまんやかに、多様な学びを互いに認め合う評価のあり方や自分の強みや得意な分野を活かしてチャレンジできる仕組みを検討していきましょう！

山村留学やフリースクール、インターナショナルスクールなど、長野県らしい様々な学びの場があることへの理解を深めていきましょう！

4

長野県の中山間地域の強みを活かした 特色ある学びを広げる

人口減少・高齢化の進展に伴い、
小規模町村が多い長野県では、
中山間地域の学びのあり方の検討が急務となっています。

中山間地域発の自由で柔軟な学びを共に創造していきましょう！

5

「こどもまんなか社会」の実現に向けた 様々な機関の連携・協働を進める

全ての子どもたちが健やかに成長していくためには、
社会全体で子どもを育てていくことが重要です。

家庭、地域、学校、行政など様々な機関が対話を重ね、
子どもの成長を共に支えていきましょう！

幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、大学、さらにはフリースクールなど、
こどもの育ちに応じた学びの場同士の連携を深め、
多様な学びに対する理解を深めていきましょう！

6

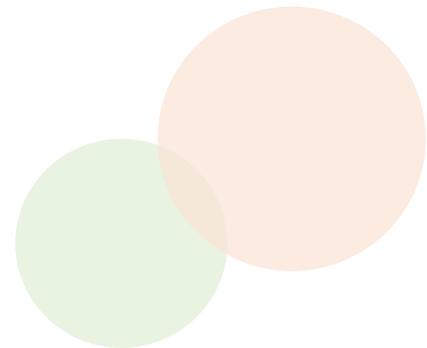
多様な学びの場を信州全体で支える ネットワークを再構築する

様々な社会課題に直面している現在において、
ひとつの自治体や学校による対応では限界があります。

あらゆる地域・社会資源を共有し、
子どもの学びのネットワークを再構築していきましょう！

地域・社会資源（自然・歴史・文化・人材）を
学びに積極的に活用していきましょう！

市町村という行政区域を越えて地域・社会資源を共有し、
学びの質を向上させていきましょう！



未来社会を創る子どもたちへ

信州の新しい学びを届けよう

学び・教育改革に臨む私たちの決意 ～日本の学びの「新しい当たり前」を信州から創る～

長野県知事 阿部 守一
長野県教育委員会教育長 武田 育夫

今まさに、時代の大きな転換点であり、日本全体、学び・教育のあり方が問われています。

子どもたち一人ひとりが自身の能力や個性を最大限伸ばし、子どもらしく生きる、その上で自分の頭で考え、目の前の課題を解決していく社会変革の当事者となっていける学びや教育を、この長野県から実現していきたい、またそれができる長野県であると信じています。

そのためには知事と教育長がしっかりと連携することはもちろんですが、義務教育は市町村や市町村教育委員会の皆さんと、また学校は学校現場の先生達、それを支える地域の皆さん、保護者の皆さん、さらには多様な学びの場を支える皆さん、など教育に携わる多くの関係者と目指すべき方向性をしっかりと共有することが重要であると考えます。

教育は「今」を積み重ねた先にある「未来」を創造する営みであり、未来とは希望です。

「信州学び円卓会議」からのメッセージを受け、私たちは未来の子どもたちのために、長野県から学びに関する「これまでの当たり前」をもう一度問い直し、子どもたちが主人公の「新しい当たり前」を創っていきます。

1 長野県の学び・教育をこのように改革していきます

- ①子どもたちが学校等でやりたいことを支える
- ②教員が学校等でチャレンジしたいことを支える
- ③一人ひとりの学びや得意を共に認め合う仕組みを検討する
- ④長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる
- ⑤「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める
- ⑥多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する

2 このような「力」をそなえた人を育成していきます

- ①他者と協力してよりよく生き、自分と他者を幸福にする「力」
- ②物事の本質を捉え自ら主体的に判断する地球市民として生きる「力」
- ③自らの人生を切り拓くための豊かな体験と基礎的な学「力」

3 このように改革を推進していきます

・市町村、市町村教育委員会、学校長、教員、PTAなど、子どもの学びに関わる教育関係者と改革の方向性を共有する。

・それぞれの立場で「新しい当たり前」は何か、その実現に向けてどのような取組ができるか検討いただき、共に改革を推進していく。

目的

信州学び円卓会議における議論の具体化を目指し、まずは検討が急務である**中山間地域の学びのあり方に焦点をあて、各地域において議論を展開し、具体的な取組に繋げていく。**

回	日時	対象	内容
1	令和6年5月8日 13:00~14:15	首長・教育長・ その他中山間地 域の学びに関心 のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーによる講演 千葉大学 副学長・教育学部教授 貞広 斎子 氏 「学校再配置・魅力化とネットワーキング ～現状と方向性について～」 ・地域課題等について意見交換 
2	令和6年9月2日 10:30~12:00 令和6年9月3日 15:30~17:00	各市町村、各市 町村教育委員会、 学校関係者、そ の他教育関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表 テーマ「地域の持続可能性を高める学びの広域的な連携について」 【9月2日】 ①北海道 更別村教育委員会 「小規模自治体間の連携による学校教育環境の充実に向けた工夫」 ②福島県 富岡町教育委員会 「地域を超えた学びの連携について」 【9月3日】 ③岐阜県 羽島郡二町教育委員会 「共同設置教育委員会の運用について」 ④大分県 玖珠町教育委員会 「"極"小規模地域における学びの保障のための取組」 ・円卓会議メッセージについての意見交換